

netone valley



新生ネットワンの象徴 自由なコラボレーション空間で 社会課題を解決するイノベーションを創発

ネットワンシステムズは、社会へ価値を提供し続ける事をビジネスの指針としている。多くの企業がDX(デジタルトランスフォーメーション)に取り組み、デジタル技術が社会を革新している今、これまで以上に大きな価値を提供するためにはどうあるべきか——。そう自問し、ネットワンは、セキュアで安定したICTインフラを提供するだけでなく、ICTインフラでお客さまや社会の課題を解決するDXの伴走者となるべく自身の変革を進めている。その変革を実践する新しい事業拠点としてイノベーションセンターの役割を持つ「netone valley」※を開設した。



ネットワンシステムズ株式会社
管理本部
総務部長
内田 雅裕



ネットワンシステムズ株式会社
テクニカルセンター長
管理本部 DX推進部長
川端 伸幸



ネットワンシステムズ株式会社
ビジネス開発本部
イノベーション推進部長
村上 丈文

オープンなコラボレーションで イノベーションを創発する

2023年5月8日、ネットワンは新生ネットワンの象徴と位置付ける「netone valley」と名付けた新事業拠点を開設した。コンセプトは「新しい価値を創造し豊かな未来を切り拓くチャレンジの場」。社員同士、そしてパートナーやお客さまとのコラボレーションを促進し、知や技術・ノウハウをぶつけ合い、共創によるイノベーションを創発していく。

約10年前からネットワンは、ワークスタイルの変革に取り組んできた。目指したのは自律的な働き方によって社員一人ひとりのパフォーマンスを高めることだ。フリーアドレスなどの仕組みや先進的なICT

ソリューションを導入したり、人事制度を見直したりしながら、場所や時間の制限をなくし、目指す姿に一步步近づいてきた。

その新しいワークスタイルが定着した今、私たちは個人として、そして企業として、次にどのように成長していくべきか。自律的な働き方だからこそ可能になる「ヒト・モノ・コト」のつながりによってイノベーションを創発していきたい——。そう考えたのがnetone valleyの構想に着手したきっかけである。

ここでは、ファシリティとICTインフラを設計した者、そして、これからイノベーション活動を牽引していく者、3人のキーパーソンのお話を通じてnetone valleyを紹介していく。

netone valley外観



※イノベーションセンター(呼称:netone valley) / 140-8621 東京都品川区勝島1丁目5番13号 グランロジテラス品川

netone valleyの目玉であるイノベーションエリア





netone valleyはイノベーションの畑。 どんな種を蒔くかワクワクしています

ネットワンシステムズ株式会社
管理本部 総務部長
内田 雅裕

複数の拠点に分散する機能を統合 様々な人が集う場所に

「イノベーションによって新しい価値を生むために重要なのは人の意識や行動の変化ですが、働く環境が刺激を与え、その変化を促すこともできるはず。その思いがnetone valleyの根底に流れています」。ファシリティ設計を中心にプロジェクトをリードした内田 雅裕は言う。

具体的にnetone valleyには、社員が業務を行うワーキングエリア、PoC(概念実証)やシステムテストを行う検証エリア、機器や部品の管理や出荷を行う物流エリア、レストランやカフェなどリフレッシュのための福利厚生エリア、そして、協業と価値創造の舞台となるイノベーションエリアという異なるエリアが同居している。「オフィス、技術拠点、物流拠点というように目的ごとに拠点が分散していると、他部門のメンバーや、関わりの薄いパートナー、お客さまのことを知る機会が限られます。人と人が出会い、互いに興味をもったり、刺激しあったりしてほしい。そう考えて複数拠点に分散していた機能を統合しました」と内田は言う。

統合が可能になったのはnetone valleyのベースがオフィスビルではなく倉庫だから。物流拠点として利用しやすいのはもちろん、床の耐荷重が高いため、検証環境のためのサーバやネットワーク機器を気兼ねなく設置できる。

自然に活動が目に入る オープンな共創の舞台

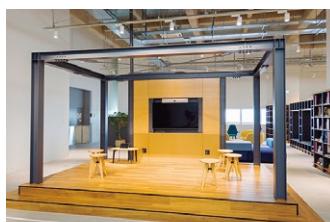
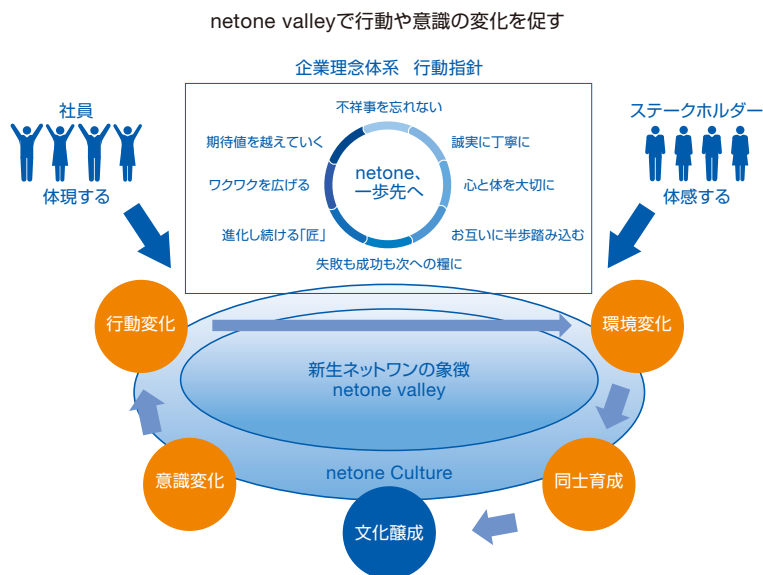
イノベーションを促進するための工夫も随所に張り巡らされている。例えば、イノベーションエリアは5階と6階にあり、テーブルやイス、ガラス張りのプロジェクトルームなどが用意されているが、空間デザインは吹き抜けで中央には5階と6階をつなぐ大きな階段が設置されている。「これは同じフロアに

あるワーキングエリアからイノベーションエリアの活動が常に『自然に目に入る』ようにするためです。どんなメンバーが何にチャレンジしているのか。netone valleyで働く全ての人が互いに刺激しあってほしいと期待して特別に工事をしました」(内田)。

また7階のレストラン&カフェスペースはイベントホールも兼ねている。セミナーや展示会などはもちろん、お客さまを誘ってスポーツ大会を開催することも可能。「何にでも使ってほしい。『多目的』を強調するために、実際、床にはフットサルのコートラインを引いています」と内田は話す。

さらに同じフロアにはゴルフシミュレーターなども設置。毎日、同じことの繰り返しではなく新しい出会いのきっかけが転がっている。日常と非日常、緊張とリラックスが混在し、そのあいまいさの中で新しいアイデアを思いつく。netone valleyは、これまでの日本の常識に対するチャレンジでもある。

「出社している人の中に、イノベーションの観点で親和性の高い組み合わせがあったら、AIが『声を掛けてみませんか?』とレコメンドを送る。そんな未来も妄想しています」と内田は意気込みを語る。



イノベーションを見据えて 自由を意識したセキュリティを実装

ネットワンのDX推進部は、社内のICT環境の構築や運用を担っている。しかし、一般的な情報システム部門とは、求められる役割が少し異なる。

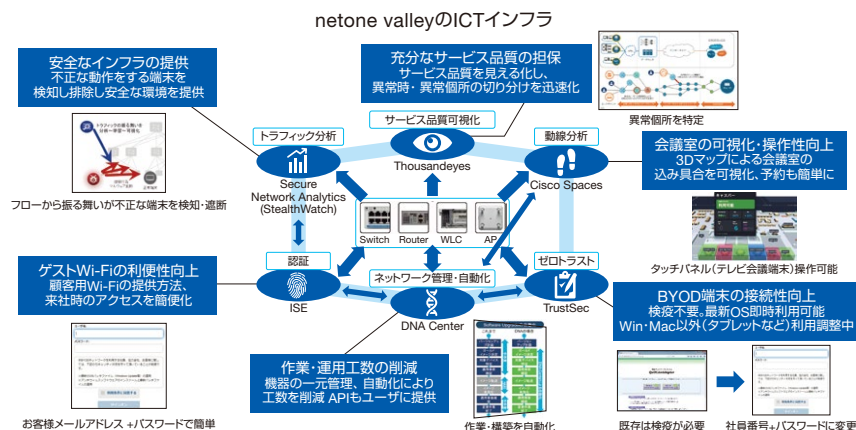
「DX推進という名称には、ネットワン自身のDXだけでなく、お客さまのDXも含まれます。お客さまに提案するテクノロジーは、まず自社で導入し、評価したり、ノウハウを蓄積したりするのがネットワンの基本姿勢。ですからDX推進部は、技術がお客さまのビジネスに役立つかどうかも見極めながら導入します。netone valleyのICTインフラでは、それをさらに強く意識し『社員とお客さまを惹きつけるオフィスインフラ』をコンセプトに、社員がお客さまに提案したくなる機器やソリューションを選びました」とDX推進部長の川端 伸幸は言う。

具体的にnetone valleyのICTインフラは「自由と安全を両立するセキュリティ」「運用の効率化」、そして「高度な将来性・拡張性」という特長を備えている。

まず「自由と安全を両立するセキュリティ」を支えているのが、Cisco Secure Network Analytics (旧Stealthwatch)、Cisco TrustSec、Cisco Identity Services Engine (ISE) である。

Cisco Secure Network Analytics は、トラフィックを高度な技術で分析したり、脅威インテリジェンスによって脅威判定・検出を行ったりしながら、攻撃行動や疑わしい振る舞いを検知。TrustSecはネットワークセグメントではなく、「人」に対するアクセス制御を実現し、ISEはnetone valleyの来訪者に簡単かつ安全なゲストWi-Fiを提供する。

「以前はネットワークに簡単に入らせないことを前提としていたため不便なことも多かったのですが、それではオープンイノベーションを目指すnetone valley にはふさわしくない。高度なセキュ



リティで自由を支え、利便性と安全性を両立しています」(川端)

思いついたサービスをすぐに開発 そのために多様なデータを可視化

「運用の効率化」を担っているのがCisco DNA Centerだ。Cisco DNA Centerは、ネットワークの直感的な管理を可能にするネットワークコントローラー。複数の機器の統合管理、ゼロタッチプロビジョニングなどの自動化によってネットワーク運用を大幅に効率化する。「運用工数の削減による生産性向上、障害の未然防止・早期解決への貢献に期待しています」と川端は語る。

最後の「高度な将来性・拡張性」は、よくいわれる機器の増設のしやすさではない。サービスの開発のしやすさを指す。

ワークスタイルが変わり、働く場所に対する要求も大きく変わってきている。例えば、「誰がどこで働いているかを知りたい」というニーズは、固定席の時代にはなかったものだ。そこでnetone valleyは「こんなことができるといいな」という閃きを、すぐに形にできるよう、様々なデータを可視化している。カメラやセンサーを各地に設置しているだけでなく、Cisco ThousandEyesによってネットワーク品質、Cisco Spacesによって人やモノの動きや位置を可視化している。

「自分たちが便利になるもの、お客さまによろこんでいただけそうなもの、営業や技術部門をはじめ多くの社員と連携してサービスイノベーションを起こしていきたいですね」と川端は強調する。

ネットワンシステムズ株式会社
テクニカルセンター長 管理本部 DX推進部長
川端 伸幸

**様々な部門と連携して
お客さまに新しい提案をしていきたい**



お客さまやパートナーと共に イノベーションを加速させます

ネットワンシステムズ株式会社
ビジネス開発本部 イノベーション推進部長
村上 丈文



新領域のビジネス開発を担う イノベーション専任組織

イノベーションを創発し、お客さまや社会の課題を解決する。このチャレンジは、ネットワン全社を挙げて取り組むものだが、その活動に特化した組織もある。イノベーション推進部である。

イノベーション推進部の役割は、データ活用やメタバース、デジタルツイン、グリーンITなど、社会の最先端領域に対象を絞り、ネットワンが今後提供する新しいサービスやビジネスを開発すること。「先端技術のリサーチ、優れた技術を保有しているベンダーの発掘、交渉から、技術検証、プロトタイプ開発、プラットフォームの提供、教育の提供まで、取り組みは多岐にわたります」とイノベーション推進部長の村上 丈文は話す。

自社だけでなく、企業や大学など外部のパートナーと共同でプロジェクトに取り組むことも多く、オープンイノベーションを掲げるnetone valleyの開設は、イノベーション推進部にとって大きな後押しとなる。

「netone valley」は、セミナールームやプロジェクトルームに加えて、ラボやカンファレンスを開催できるホールを備えており、これまで以上に軽いフットワークで先端技術を試したり、イベントを開催したりできます。連携するパートナーは地方や海外の企業も多いため、netone valleyが羽田空港に近いことも私たちにはメリットで

す。netone valleyを舞台に様々なお客さまやパートナーと共創して新しい価値を生み出したいですね」と村上は言う。

すでにnetone valleyのことを紹介したお客さまやパートナーからは大きな期待を寄せられており、カンファレンスやPoCの相談も生まれている。

ローカル5Gやデータ活用など 新プロジェクトがすでに始動

具体的なイノベーション活動としては、目下、ローカル5Gに関するプロジェクトを検討中だ。

超高速、多数同時接続、超低遅延といった特長を持つ5Gネットワークには、様々な可能性があるといわれるが、その可能性を最大限に引き出す1つの方法がローカル5Gだ。一般企業や自治体などが自前の5Gネットワークを構築して利用できることから、工場のロボットや建設現場の機器の自動制御などをより高度に行えるなど、期待が高まっている。

「パートナーと共にnetone valleyのローカル5G環境を使って検証を行い、共にサービス化を検討していく計画です。また、様々なデータを取得して可視化したり、活用を前提に多様なデータを統合したり、多くの企業が取り組んでいるデータ活用の理想的なモデルもnetone valleyを舞台に追求し、ネットワン自ら『データドリブンエンタープライズ』を実践していきたいと考えています。これら取り組んでいるプロジェクトの成果などは『INNOVATION SHOWCASE』というコーナーで常時発表していきます」と村上は話す。

このように新生ネットワンの象徴であるnetone valleyには、全社を挙げてイノベティブな企業になるという強い思いが反映され、すでにイノベーションに向けた取り組みも始動しはじめている。これからのネットワンに大いに期待してほしい。

イノベーション推進部の取り組み

イノベーションセンター/INNOVATION SHOWCASE

社会課題解決に関連した国内外ステークホルダーとの連携
市場に対する最先端情報の発信・啓蒙・人材育成



国内大・中小企業



国内・海外スタートアップ



研究機関・教育機関



ジョイント
リサーチ



nBC
netone Briefing Center



テクニカルセンター
/Laas



PoC/PoV
システム実装・検証



ネットワーク
アカデミー

リサーチ/発掘

技術・市場検証

ワークショップ・
プロジェクト検討

共創プロジェクト化

開発・設計・構築・運用 with フィードバックループ



ネットワンシステムズ株式会社

〒100-7024 東京都千代田区丸の内2-7-2 JPタワー
<https://www.netone.co.jp/>



ネットワンパートナーズ株式会社

〒100-7026 東京都千代田区丸の内2-7-2 JPタワー <https://www.netone-pa.co.jp/>

記載されている社名や製品名は、各社の商標または登録商標です。
記載情報は2023年5月現在のものであり、予告なく変更される場合があります。
最新の仕様および価格については、弊社営業までご確認下さい。



特設サイトはこちら

